

「フードロス低減量」認証、「フードロスクレジット」取引

目 概要

「フードロス低減量」認証

アップサイクルで作った製品に対して、フードロスの低減量を数値化して表示するサービス。

その製品による、フードロス低減への寄与度を認証して、下記のような表示を付与することで、「アップサイクル」による製品への付加価値を高める。

「この製品の●%が、廃棄された食品からつくられています」
「この製品によって、年間で食品ロス●●kgが削減されます」など

- ・「フードロス」への問題意識をもつ消費者にとって、多少高くても、認証製品は魅力的。
- ・「アップサイクル」を行う企業にとっては、認証により信頼感が向上し、原料コストをかけても価格に転嫁可能になる。
- ・「アップサイクル」の経済価値が明確になることで、廃棄食品の市場取引が促進されるようになり、結果的に食品ロスが減る。

「フードロスクレジット」取引

さらに、CO2排出のカーボンクレジットのような仕組みで、「フードロスクレジット」としての取引を目指す。

フードロスクレジットは、食品廃棄によるフードロスの量と、アップサイクル製品の利用によるフードロスの低減量の合計を数値化したもの。数値が小さいほど、実質的なフードロスが少なく、環境負荷が低いことを示す。食品を廃棄する企業は、アップサイクル製品を利用することによって、フードロスクレジットを下げることができ、環境負荷が低くなる。

- ・「フードロス」への問題意識をもつ消費者にとって、フードロスクレジットが低い企業やその製品・サービスは魅力的。
- ・食品を廃棄する側の企業にとっても、「アップサイクル」製品を活用するインセンティブとなる。
- ・結果的に、食品ロスが減る。

目 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

食品廃棄問題は深刻化しており、一体どの製品がフードロスの削減に貢献しているのかが消費者にはわかりにくい状況です。そのため、企業がフードロス削減に取り組んでいても、その価値が消費者に伝わりにくく、その努力が報われにくい市場状況があります。

目 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

「フードロス低減量」認証と「フードロスクレジット」取引を導入することで、企業が行うフードロス削減活動を数値化・可視化し認証することで、消費者にその取り組みを伝え、その価値を理解してもらいます。また、「フードロスクレジット」取引によって、フードロスの削減量を企業間で取引できるようにし、フードロス削減活動の価値をより明確にします。

目 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

既に、CO2排出量をカーボンクレジットとして取引するというモデルが存在します。
また、CO2排出低減に向けた、消費者の行動変容を目指した「デコ活」があり、各人のCO2貢献度を可視化する取り組みがあります。（七島さん、情報に感謝！）

<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>

<https://www.nttcom.co.jp/news/pr23072501.html>

目 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

このアイデアの優位性は「フードロスの削減量」を数値化・認証することにより、消費者にその価値を伝えられる点。CO2の可視化と似てはいるが、食品に特化しており、生活者目線からは、下記の点で分かりやすい。

・「CO2 ●kg」と比べて、「食品●kg」というのは具体的・直観的でイメージしやすい。「もったいない」意識への訴求力が強い。

- ・生活者が自らがすぐに行える取り組みとして、食品を捨てない／買いすぎない、という行動変容も喚起できる。

実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

1. 企業からのフードロス削減量の報告とその審査体制を構築。
2. フードロスクレジット取引のフレームワークや、をつくる

※将来的には、食品を廃棄する企業とアップサイクルする企業のマッチング、パートナーシップの仲介・コンサル事業を行ってもよい

<認証プロセスのイメージ>

- ①食品を廃棄する企業とアップサイクルする企業からの書類申請、

食品を廃棄する企業と、アップサイクルする企業の連名で、リサイクルする食品の種類や数量や、アップサイクル製品の製造量および含有する食品量を書面で示してもらう。

- ②認証サービス事業者による書類審査と現場監査 →認証

- ③その後、定期的な監査

課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

課題としては、フードロスの削減量を如何に公正に計測・評価するか、そしてそのフードロスクレジット取引が公正に行われる体制を作ることが挙げられます。

食品を廃棄する企業と、アップサイクルのマッチングサービスや、ITを活用して数量をデジタルで管理する技術で、管理コストや人員を効率的に運用しつつ、情報の正確さと、信頼性を担保する必要がある。誤った認証は、景品表示法に触れる。

期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

認証のプラットフォームのためのシステム開発、審査のための人的リソース、初期費用として数百万円から数千万円、半年から1年はかかる可能性がある。さらに、ローンチ後も、認知拡大と信頼性獲得のプロモーションなどへの数千万円の投資が必要。

- ①そこで、まずは自治体と組み、補助金等を活用して、県や市などの地域レベルでスタートする（umedaさん、コメントありがとうございます）。

- ②さらに、大手のスーパーや大手の飲食チェーンと組んで、製品や領域を絞って進める。

- ③消費者の認知度を高め、業界内でのプレゼンスを高めてから、地域や領域を上げ、最終的にはあらゆる製品に適用できるプラットフォームにする。

未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

このアイデアが浸透すれば、消費者はより良い選択を行え、企業はフードロス削減の取り組みを通じて新たな価値を生み出すことができます。これが食品ロスを格段に減らし、社会全体で環境問題への配慮を深めることに繋がると考えています。